

# 昭和47年7月豪雨災害

## 技術調査団参加記録から

### まえがき

昭和47年7月2日 九州北部に降り始め その後ほとんど全国にわたって長雨と 局部的集中豪雨をもたらした。7月14日によろやくおさまった「昭和47年7月豪雨」による災害に対して 昭和47年7月8日 総理府に「昭和47年7月豪雨非常災害対策本部」が設置されたが 今回の集中豪雨によって 崩壊危険区域と考えられなかったようなところに 山くずれが多数発生し そのため被害が大きな社会問題となったことに対処し あわせて今後の対策について技術的な検討を加えることを目的として 7月25日 技術調査団の派遣が決定された。

地質調査所からは この技術調査団に 応用地質部の安藤 武・木野義人・黒田和男の3名 および現地参加として1部 名古屋出張所の近藤善教技官が加わり 8月15日から23日にわたって おもな被災箇所を巡検した。その内容は「昭和47年7月豪雨災害技術調査報告書」として発表されたが ここでは 現地調査の結果をとりあえず紹介して 今後の調査研究の資料に供したい。

### 昭和47年7月豪雨のあらまし

7月2日午前3時ごろ 中国大陸の黄河下流域に1000mbの低気圧が発生し これが北東に進むにつれて 南西海上から非常に湿った空気が吹き込み 福岡・佐賀・長崎・熊本県下の1部に局部的集中豪雨をもたらした。

7月5日には 低気圧は日本海北西部に達したが これに伴う前線の付近では 福岡県南部 高知県北部に4日午後から5日朝にかけて集中豪雨となり 5日午後には 宮崎県えびの地方に大雨が降って ここに土佐山田町繁藤地区 宮崎県えびの市真幸地区で大きな被害が発生した。

7月6日 強雨の集中域は熊本県西部に移り 天草上島に大規模な土石流が発生した。同じころ高知県東部でも集中豪雨に見舞われている。

7月7日 朝鮮半島の元山沖に1000mbの低気圧が発生して東北東に進み これから南西にのびる前線が明瞭になるとともに 湿った空気もこれに流れこみ このため秋田県・岩手県・青森県・山形県下 および北海道の天塩・北見地方が大雨に見舞われた。ここでは 山くずれよりもむしろ 米代川沿岸低地の洪水が顕著な災害となっている。

黒田和男・木野義人・安藤 武・近藤善教\*

7月9日から10日にかけて 前線は南下し その後12日夜まで 東海道から紀伊半島を経て九州北部を結ぶ線上に停滞した。 楊子江流域からは次々と低気圧が東進し 南方海上にあった台風6・7・8号の影響も加わって 以後13日まで 全国的な降雨に見舞われた。 その中でも

10日～12日夜	九州北部一山口県西部
9日～12日	山口・広島・島根・岡山県一带
12日午後	長崎・福岡・佐賀県
10日夜	長野県諏訪地方
11日夜	岐阜・福井県境付近
12日夜	神奈川県丹沢山系
12日夜～13日朝	愛知・岐阜県境付近

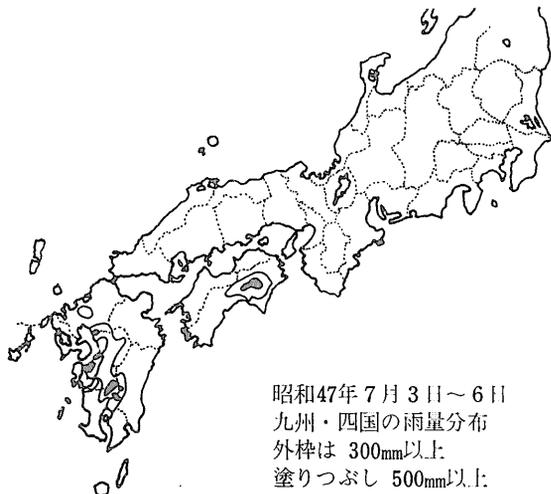
の被害がとくに著しい。

さて 7月15日には 台風6号が知多半島に上陸したが 南九州では梅雨明けとなり 7月19日には東日本も梅雨明けとなって よろやく豪雨も終わりを告げた。

### 被害の概要

今回の「47年7月豪雨」による災害は 全国32都府県に及んでいる。第1表には 7月17日現在の警察庁調べによる数字の1部を示したが この中には 台風6号による被害は含まれていない。

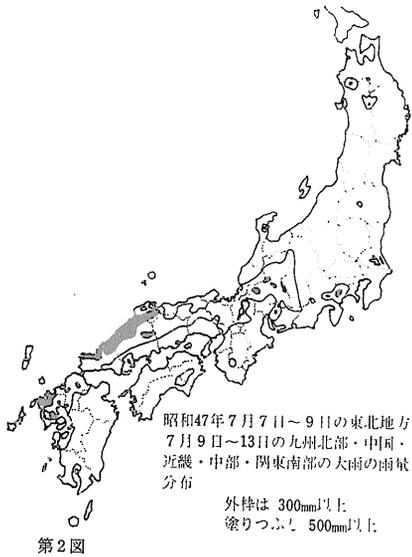
災害救助法は 7月5日8時30分の福岡県三池郡高田



第1図

第1表 昭和47年7月豪雨による被災状況抜粋 [7月17日現在 警察庁調べによる]

府県名	死者	行方不明	負傷	全・半壊	流失	罹災世帯数	山(崖)くずれ	災害救助法適用市町村
	人	人	人	戸	戸	世帯	箇所	
福岡	13	1	13	82		4,309	756	高田町ほか7
佐賀	3		17	39		1,140	320	佐賀市
熊本	117	5	156	671	265	4,946	893	人吉市ほか18
大分	1		5	6		10	23	
長崎	5		16	35		503	318	
宮崎	5	4	12	42		63	63	えびの市
鹿児島	2		10	150	67	960	40	菱川町 宮城町 大口市
高知	58	2	8	13		545	121	土佐山田町 野市町 安芸市
愛媛							4	
徳島	1			7		61	49	
広島	31	8	48	354	85	13,750	266	三次市ほか24
島根	25	3	40	497	79	13,598	1,075	三隅町ほか20
山口	16	1	25	27	10	6,982	292	楠町ほか5
岡山	14	1	17	137	22	3,070	206	建部町ほか20
鳥取			1	1		212	314	
大阪		2	2	9		3,056	154	大東市 門真市 東大阪市 八尾市
京都	7	1	5	24		143	377	
兵庫				16		66	214	
滋賀	1		5	2		31	58	
奈良	1		3	5		35	70	
和歌山	1			5		81	90	
愛知	59	7	49	152	30	1,873	106	小原村 豊田市 藤岡町 足助町
三重						2	33	
岐阜	23	4	60	86	3	637	175	明智町 瑞浪市
福井				1		153	102	
石川				4		2	1	
富山				1		50	19	
長野	4	1	7	15	2	95	13	
山梨	1			2		8	2	
神奈川	6	3	16	42	22	762	27	山北町
東京			2	6	2	873	36	
千葉						39	1	
埼玉							2	
茨城			3	7	6	5,363	119	二ツ井町ほか5
秋田	1				2	171	9	
青森						4	4	
岩手							21	
山形			1				25	
北海道				2		46	1	
静岡	2	1	7	27	5	62	86	小山町
合計	396	44	534	2,483	600	61,942	6,300	126



第2図



第3図

町から始まり 7月15日 8時30分の島根県美濃郡匹見町まで 累計126市町村に適用され 救護活動が行なわれた。

技術調査団の編成

今回の非常災害対策本部技術調査団は 集中豪雨により 人的物的に大きな被害を発生させた山くずれ・崖くずれを対象として 災害の状況を調査し その原因と発

生機構を解明し あわせて今後の応急的 ないしは恒久的対策について技術的な検討を行なうために編成されたものである。

調査団は 第3表のとおり 関係省庁の研究者で構成され 九州地区 中国地区 四国・中部・関東地区の3班が それぞれ担当地区の調査を行なった。

以下 各班ごとに 被害などの概況を紹介しよう。

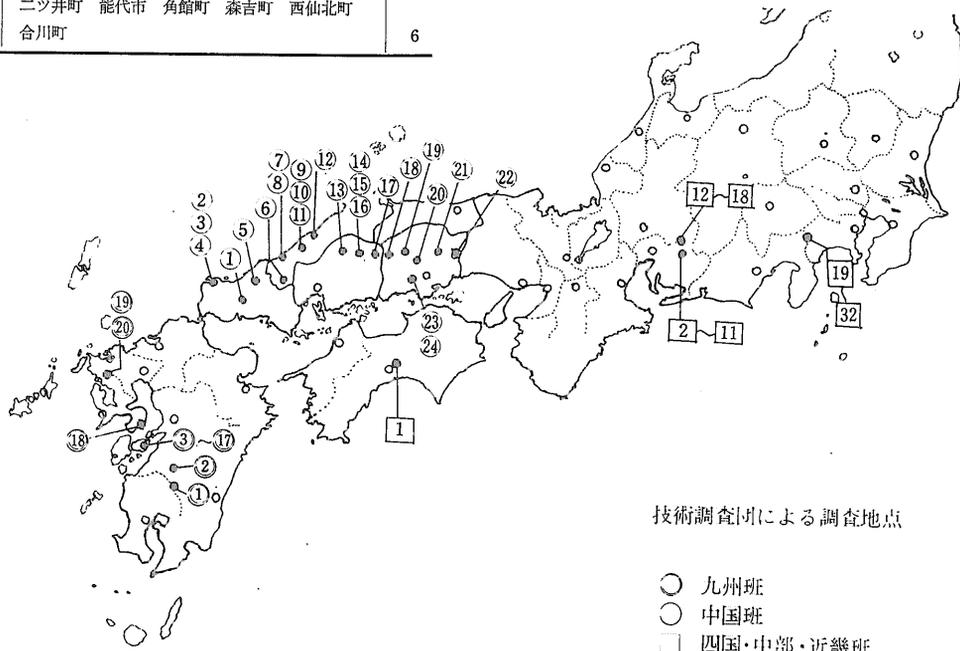
(筆者らは 応用地質部・\*印は名古屋出張所)

第2表 災害救助法適用市町村一覧表

府 県	市 町 村 名	合計
鹿児島県	菱刈町 宮之城町 大口市	3
宮崎県	えびの市	1
熊本県	人吉市 城南町 松橋町 小川町 甲佐町 栖本町 御船町 富合町 八代市 竜ヶ岳町 倉岳町 松島町 姫戸町 豊野村 球磨村 坂元村 嘉島町 中央村 熊本市	19
佐賀県	佐賀市	1
福岡県	高田町 飯塚市 穂波町 太宰府町 方城町 稲筑町 香春町 北九州市	8
山口県	柳町 川上村 山口市 小郡町 小野田市 徳地町	6
島根県	三隅町 川本町 桜江町 邑智町 江津市 大和村 益田市 松江市 浜田市 出雲市 羽須美村 宍道町 斐川町 平田市 日原町 柿木村 六日市町 加茂町 大田市 木次町 匹見町	21
広島県	三次町 吉舎町 作木村 三良坂町 神石町 甲奴町 上下町 高宮町 大朝町 千代田町 比和町 西城町 加計町 庄原市 東城町 総領町 戸河内町 吉田町 甲田町 豊平町 口和町 油木町 君田村 世良町 高陽町	25
岡山県	建部町 高梁市 佐伯町 矢掛町 備中町 哲多町 柵原町 久米町 北房町 成羽町 落合町 新見市 川上町 鏡野町 岡山市 津山市 御津町 哲西町 有漢町 吉井町 旭町	21
高知県	土佐山田町 野市町 安芸市	3
大阪府	大東市 門真市 東大阪市 八尾市	4
愛知県	小原村 豊田市 藤岡村 足助町	4
岐阜県	明智町 瑞浪市	2
静岡県	小山町	1
神奈川県	山北町	1
秋田県	二ツ井町 能代市 角館町 森吉町 西仙北町 合川町	6

第3表 技術調査団の構成等一覧表

班 別	九 州	中 国	四国・中部・関東
団 長	安尾 俊 (科技厅科学審議官)		
班 長	大平 成人	農土試 増村啓一郎	防災セ 渡 正亮 土木研
調 査 員	中野 秀章 林業試 木立 正嗣 林業試 木野 義人 地質調 安江 朝光 土木研 井口 英明 防災セ	五十嵐正次 農土試 村尾 重信 農土試 杉山 利治 林業試 蜂屋 欣二 林業試 黒田 和男 地質調 吉岡 良朗 土木研	岸本良次郎 農土試 難波 宣士 林業試 松井 光瑞 林業試 安藤 武 地質調 西川 泰 防災セ 細野 義純 消防研
幹 事	岩川 辰男 科技厅	河村 重雄 防災セ	小見波正隆 科技厅
調査地区	宮崎県えびの市 熊本県人吉市 同 天草上島 長崎県深江町 同 佐世保市	山口県下 島根県下 広島県下 岡山県下 中国山地一円	高知県土佐山田町 愛知県北三河 岐阜県東濃 } 山地 神奈川県山北町
調査期間	8月15日～8月23日		



技術調査団による調査地点

- 九州班
- 中国班
- 四国・中部・近畿班

第4図